令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【針ヶ谷小学校】

① 今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する資質・能力	学習スタイルを自己コーディネートする資質能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	①教師が単元を通した教材研究の工夫を行う中で、一斉指導と探究としての個別最適な学習の時間を効果的に設定していくようにする。学校の課題として、個人差が大きいこともあるため、その中で個別支援の時間を多く作れるようにしていく。（通年） ②自己コーディネートすることは、児童がすべてを自由に行うことではないので、学びのゴールを明確化した上で、まずは教師側から選択肢を用意していく。その選択肢により、児童が学びを深めたり、振り返りにより、自己内省を行ったりして、児童のメタ認知能力を高めていく。（通年） ③児童への問いかけを工夫し、児童自身が自分で考えて行動できるようにする。また、様々な場面で学びのモデルを用意し、それらも選択肢として取り入れることで、児童の安心感や選択肢の幅を広げることにつなげていく。（通年）

② 全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	国語においては、ほとんどの問題が正答率70%以上という結果であったが「情報の扱い方」と「書くこと」については70%に至らなかった。 算数においては、「データの活用」と「変化と関係」が正答数が低くなっていた。また、国語よりも正答数に個人差が見られた。一方で、児童質問調査の結果においては、国語が得意という肯定的な回答が57%、好きだという肯定的な回答が61%、内容を理解しているという肯定的な回答が92%、算数が得意という肯定的な回答が57%、好きという肯定的な回答が66%、内容を理解しているという肯定的な回答が87%という結果から得意であることや好きであることと内容を理解していることが必ずしも結び付いていないところが課題である。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語では、問題が後半に進むにつれ、無回答率が増えていき、特に最後の問題に関しては、①問題に向き合う十分な時間を確保できなかったことや②問題を最後まで解きさる体力及び気力、③本校の児童の苦手とする「書くこと」という3つの視点から無回答率が一番高くなったと推測する。 算数では、条件に合う数の読み取りに課題がある。質問調査の新聞を全く読まない児童が約8割というところも因果関係があると考える。

③ 中間評価

学力向上策の実施状況	評価（※）	①探究を中心とした授業をデザインすることにより子どもたちが自ら課題を見つけ、対話を取り入れながら、主体的に学びを進める姿が見られるようになってきた。 ②児童がこれまでの振り返り活動を通して、自身の学びを内省し、メタ認知力が育ってきたため、次のステップとして、毎時間の学習テーマから個人の課題を設定し、見通しをもって主体的に学習に向かう姿を目指している。 ③教師から思考を深める発問をすることにより、授業の中で児童の課題に対する捉え方が「与えられた課題」から「自分事への課題」へと変わってきた。今後は、1つの課題解決から新たな問いを立てるところまでを目指し、探究のサイクルの中で児童が自走できるようにしていく。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	現状維持。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤ 年度末評価

学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）